

(2) 壁土作り

① 道具と壁の説明

当日使用する道具の形・種類・使い方を説明します。
土壁の仕組み及び、新建材による壁との違いを説明します。

② 実際に使用する壁土をねります。

事前に用意した壁土を舟（箱形の土を入れる入れ物）に入れ、くわでよく練ります。参加者がかわるがわる交代して、全員に体験してもらいます。



(3) 土壁塗り

いよいよ土壁塗りを行います。
まずは、コテ板に土を載せます。



コテ板に乗せた土を、コテを使って壁にこすりつけます。



(4) 後片付け・清掃

使った道具をきれいに洗って、後片付けを行います。

長い年月をかけて工夫された道具の実物を見てもらいます。
土は自然素材です。

壁土は土とわらを混ぜ、概ね1ヶ月かけて発酵させてできあがりません。練った土は、色が変わり、においがします。
事前に発酵させた土との違いを体験してもらいます。

土は重いので、最初は少しずつ乗せるといいでしょう。

土を押し付けるように塗ります。うまくできない時は、指導員に聞きましょう。
塗った土が、空気にふれることにより、変色する様子が見られます。

道具を大切にすることを学びます。

4. 学習のまとめ

ワークシートに、今日体験したことの感想・意見を記入してもらいます。
土壁塗りの体験を振り返り、質疑応答・意見交換をおこないます。
参加者の年齢に応じて、相応の質疑（気付き）を提供し、皆が考えをまとめられるよう指導します。

追加・変更できる学習内容

土壁の下地作り（竹小舞）の実演

事前・事後学習についての助言

事前に参加者の住宅が、どのような造りが学んでおくとよいでしょう。
手近に蔵・土蔵などがあれば内部を見学し、空調の効いていない状態での外気との違いを体験するのも良いでしょう。
シックハウス症候群など、昔はなぜ起きなかったかを考えるきっかけになればよいと思います。

雨天時の学習内容

雨天時は、基本的に実作業はできません。
室内において、写真パネル等で、土壁の仕組み・歴史などの説明程度の対応になります。

プログラムの詳細

<http://www.feel-sendai.jp/program/tsuchi.html>